

春秋彩

Shunjusai

vol.49

熊本県立大学広報誌

2018
Autumn



CONTENTS

特集 第3期中期計画スタート・白石理事長就任...	2
活躍する卒業生	7
後援会だより・地域連携	8
研究活動紹介	9
国際交流	10
大学の動き	12
生き生き元気種	14
未来基金・おすすめの一冊・人事情報	15
熊本県立大学アーカイブス	16

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

 **熊本県立大学**
Prefectural University of Kumamoto

地域と世界に目を向ける学生を育み、さらなる地域貢献を目指す

第3期中期計画スタート・白石理事長就任



今を見つめて



熊本県立大学学長

半藤 英明
Hando Hideaki

平成という時代が、まもなく今上天皇の退位とともに終わろうとしています。昭和の戦争を悔い改め、幸福な世紀でありたいと願った平和な時代は情報化とグローバル化が到来し、新技術の開発と地方創生が推進され、少子高齢化に立ち向かおうと繁栄を目指し歩む、豊かな経済の時代でありました。一方で、身勝手な言動が世を席捲し、人心の荒廃が目立つ不安な雲行きも見られます。社会システムが所々でほころびを見せています。金満と貧困が際立ち、不平等感がはびこる社会は健全ではありません。諦念、虚無、嫉妬が破壊や暴力と化す事例は過去の歴史が証明するところです。私たちは今の立ち位置を見つめ直す必要があります。

人は、少年・少女期から青年期に至る過程でアイデンティティの確立を得ようとします。自分がどのような人間であるか、長所が何で欠点は何か、自分は何がしたいのか、などと、自分に関する自発的な問いと向き合い、自分という人間の理解に努めます。自分を理解することで自分と異なる他者を強く意識し、他人との付き合い方を模索するようになり、成功と失敗の体験を積み上げながら集団のなかでの自分のあり方・生き方を見定めます。アイデンティティの確立とは、人が集団のなかの存在であり、社会の一員として生きていく上での心構えを形成することに通ずる精神活動です。

学生諸君が大学時代に獲得すべき最低限のものは何か。それは、アイデンティティを確立し、いずれ大学から巣立ち、広く多様な社会で生き抜く上での覚悟を得ることです。それらは、今の立ち位置を自覚し尊重する態度とともに、自発的に諸課題と向き合い、意欲をもって解決に資する生き方を選択できる知識人としての精神性です。徳の高い精神性の獲得を目指し、ここ熊本の地に根ざす熊本県立大学の一員として、熊本、熊本県下をよく理解し、諸課題を見出して分析し創造する意欲を育てほしい、それが私の願いです。

第3期中期計画 (H30-35)

本学は、「総合性への志向」、「地域性の重視」、「国際性の推進」を理念とし、「地域に生き、世界に伸びる」をスローガンに掲げています。本年度から始まった第3期中期計画においては、第2期に取り組んできたことの実質化を図り、国際的な視野と認識を高めるとともに、地域との幅広い協働を確立する教育研究を引き続き発展させていくこととしています。また、総合性を重視しつつ、独自の専門性を十分に生かした質の高い教育研究を推進していきます。

主に下記の3つについて取り組むこととしています。

(1) 国際的な視野と認識を高める教育研究の推進

地域課題に柔軟に適応し、かつ、グローバルな視点で活動できる学生を育成するプログラム「もやいすと：グローバル(仮)」を新設するとともに、学生の海外留学や留学生の受入れを促進し、相互交流や異文化理解を図り、国際的な視野と認識を高める教育研究を推進します。

具体的計画

【教育】

- 「もやいすと：グローバル(仮)」プログラムの新設
- 学内で日常的に英語に触れる場"English Lounge(仮)"の新設その他カリキュラム内外での英語による多様な取組みの拡充
- グローバル化推進のための外国人留学生受入れ増加の取組みの推進
- 英語を含む外国語能力の向上

【国際交流】

- 学生の海外留学・研修メニューの拡充
- 学生の留学支援のための経済支援の拡充及び危機管理対策の推進
- 学内外での国際交流や異文化理解の機会の拡充
- 海外協定校との派遣・受入れの相互交流拡充、外国人留学生の受入環境整備の推進
- 海外大学等との間の研究者交流・共同研究等の推進

(2) 地域と幅広い協働を確立する教育研究の推進

第2期に引き続き、熊本地震からの創造的復興への支援を含め、プログラムの推進を視野として地域に学ぶことを重視し、地域課題の解決に資する研究活動を行い、また、社会人・職業人に対する教育を推進します。

具体的計画

【教育】

- 防災・減災や復興支援を視野に、地域の諸問題を題材とした実践的な教育の推進、地域リーダーを養成する本学独自の教育プログラム「もやいすと育成システム」完成
- 地域におけるボランティア等の活動その他学生の自主性を育む課外活動の活性化への支援
- 社会との接続を念頭に置いたキャリア教育の推進
- インターンシップ等を通じた就業力育成、県内企業に関する情報提供等も含めた学生の希望に沿った就職支援

【研究】

- 独自性のある研究及び地域の課題解決に貢献する研究の推進、熊本地震の体験に基づく防災・減災及び復興支援を視野とした研究の推進

【地域貢献】

- 各種公開講座の充実及び専門的職業能力開発支援プログラムの推進

(3) 社会や時代の状況を踏まえた対応

社会や時代の状況を踏まえ、教育内容・教育方法及び教育研究組織等の検証を行い、効果的な改善・見直しにつなげるほか、業務運営の改善・効率化や防災対策の推進等についても積極的に取り組みます。

具体的計画

【教育】

- 入学受入方針(AP)に基づく多様な入学選抜の実施及び入試改革
- 学修成果の可視化と評価、学位授与方針(DP)及び教育課程編成・実施の方針(CP)の検証・改善

【教育研究組織】

- 総合性と専門性のバランスを考えた知の形成に向けた学部学科、研究科及び附属機関等のあり方の検討

【自己点検・評価】

- 内部質保証の観点からの点検・評価及び改善、方針・体制の検証

【安全管理】

- 施設設備の防災的観点からの維持管理、事業継続計画(BCP)の策定その他の防災対策の強化

【業務運営】

- 事務の簡素化、合理化及び重点化

【財務】

- 効率的な運営及び経費の抑制
- 外部資金獲得の推進
- 授業料の確実な徴収等による学生納付金の確保

「もやいすと評価制度」スタート

地域人材としての能力を高めるために

「もやいすと」とは、「熊本の自然や文化、社会に対する理解に立ち、専門の枠を超えて、自ら課題を認識・発見し、“地域づくりのキーパーソン”として地域の人々と協働して課題の解決に取り組む人材」です。熊本県立大学では「もやいすと」の育成へ向け、学内外でさまざまなカリキュラムを展開しています。

熊本県立大学では平成29年度より、地域人材としての能力開発・育成を促進することを目的に、新たに「もやいすと評価制度」をスタートしました。学生の学びの意欲を高めると同時に、地域人材としての学生個々のスキルや能力を、学内外へわかりやすく示すものです。

「もやいすと評価制度」は、学生の学修活動を評価し「もやいすと」として認定を行うことによって「もやいすと育成システム」への参加のモチベーションを高め、地域人材としての能力を育成することを目的としています。具体的には、単位修得の状況をはじめ、カリキュラム内外での学修活動をポイント換算したうえで審査を行い、認定します。

※認定対象は「もやいすと育成システム」が開始された平成27年度入学者以降の学生です。

もやいすとスーパーの声

県大防災ユニットを結成、防災ワークショップを開催

熊本地震を受け、一人一人が防災意識を持つことの大切さを痛感しました。一方、地震による被害がほとんどなかった地元・天草では、防災への備えや危機意識が低いのが実情です。天草の防災意識を高めるために、自分に何ができようかと考えていた矢先、「もやいすと」の仲間が地域で行う活動に参加する機会がありました。活動を通じて外部との交渉や調整の大切さを知り、その手法を垣間見ることができたことで、自分も一歩前に進もうと決意。「もやいすと(防災)ジュニア育成」で学んだことを生かして「県大防災プロジェクトユニット」を結成し、熊本大学や上智大学の学生にも参加してもらって、防災クロスロードゲームのワークショップを実施しました。さらに「天草版防災クロスロードゲーム」を開発し、天草の住民を対象とした「防災ワークショップ」などを開催しています。

地域での活動をつづけていくには企画や実行力だけでなく、地域経営の視点も欠かせません。大学と連携し、研究の一環として地域経営の視点を養えることなども「もやいすと育成システム」の魅力のひとつだと感じています。



生田 健誠さん
(総合管理学部 4年)

◆設定区分

区分	必要ポイント数
もやいすとスーパー	100pts
もやいすとシニア	50pts
もやいすとジュニア	20pts

◆ポイント換算表

対象	基準	ポイント数
もやいすと(地域)ジュニア育成	単位修得	20pt
もやいすと(防災)ジュニア育成	単位修得	20pt
もやいすとシニア育成	単位修得	30pt
上記三科目における スチューデント・アシスタント(SA)	業務完了	30pt
地域連携型卒業研究(学生GP)	卒業論文	30pt
地域に関係した内容を含む 卒業研究(学生GP以外)	教員評価	上限30pt
地域志向科目及び地方創生科目	単位修得	3pt/科目 (上限30pt)
もやいすとポートフォリオ	教員評価	上限30pt

平成30年6月11日、もやいすと評価制度による第1回の認定式が行われ、認定された3名に学長より認定証が授与されました。

平成30年度 もやいすとスーパー認定	平成30年度 もやいすとシニア認定
生田 健誠(総合管理学部 4年)	森内 貴士(総合管理学部 4年)
出口 貴啓(総合管理学部 4年)	





Japan Studiesプログラムが 試行的にスタート

英語で授業を展開

この4月から、日本や熊本の文化、文学、環境、社会等に関する内容を英語で学ぶことができる Japan Studiesプログラムを試行的に開始しました(平成 31 年度から本格実施予定)。今後、さらなる充実を図ることで、「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」に重点を移し、海外の協定校等の学生に本学への留学を促すと同時に、本学学生が英語を通して海外への興味を深め、双方の異文化理解の促進を図っていくこととしています。

海外留学を希望している学生や英語力の向上を目指している学生の皆さんにはぜひ積極的に履修してください。



(左)谷口 健太 (中央)下川 沙希 (右)下赤所 巧
文学部英語英米文学科 1 年

◆平成30年度Japan Studies科目

	科目名	開講学期
1	Language and Culture I	前期
2	Language and Culture II	後期
3	地域文化研究II	後期
4	異文化コミュニケーション論B I	前期
5	異文化コミュニケーション論B II	後期
6	Science English I	前期
7	Science English II	後期



Kenta:

What I liked was that we were able to share our own opinions not only with those in the same grade but also with our seniors. Actually, I deepened my understanding and knowledge of matters that I did not know clearly through the class.

Saki:

I found it interesting to develop a product targeting Japanese customers with my group members because I was able to learn the process of product promotion. While making a product, I discussed how we attract the particular customers with my group members again and again. Finally, we were able to do a good group presentation.

Taku:

I think that analyzing TV commercials in Japan is interesting. This is because Japanese TV commercials are so well-designed. For example, TV commercials appoint popular actors and actresses to attract the audience's attention. I was able to learn about commercial techniques. So, I think analyzing TV commercials in Japan is interesting.

平成30年4月1日付で新理事長に白石 隆氏が就任しました！ 「県大でよかった」と思える大学に

一問一答

Q

熊本県立大学の理事長として、どんな抱負をお持ちですか。

A

学生が「進学してよかった」、保護者の方々が「進学させてよかった」、企業の経営者が「この人を雇ってよかった」と思っただけの大学、教職員が誇りを持って働いている大学にしたい。大学経営の目的は大学の評判を上げていくこと、そのために何をすればよいかを考えている。

Q

県大生にどんな4年間を過ごしてもらいたいですか。

A

自分でどうしてこれはこうなのかと問題を見つけ、その問題を解くために、いろんなものを読み、現場に行き、うまくいった例を検討し、人の意見を聞き、仲間と議論し、自分なりに答えを出していく。それでやってみよう、うまくいかなかったらまた考える。そういう「問題発見・問題解決」の姿勢を身につけることが一番重要と思う。



Q

英語がご堪能とのことですが、どのように英語を身につけましたか。

A

大学院に進学、アメリカに留学するためにTOEFL[®]を受けてみたら、ひどい成績だった。そのため1年間、英語学校で「話す」と「聞く」を学んだ。そのあと、結局、アメリカに15年間住んだし、妻も日本人ではないから、家では英語と日本語の二つがいつも使われている。英語を学ぶには英語で話さざるを得ない環境に自分を置くのが一番いい。

Q

熊本の印象はいかがですか。

A

非常に豊かなところというのが率直な印象。非常に豊かだから、県大の卒業生もあまり外に出て行って仕事をしようとか、何かビジネスしようとか、活躍しようとか、考えなかったのかもしれない。いま、県下の市町村を一つ一つ訪問しているが、熊本も日本の直面しているいろいろな課題に直面している。そういう課題にうまく答えを出すにはどうすればよいのか。豊かなところだし、非常に住みやすいところなので、他のところでは出せないような答えが出せるのではないかと思っている。スマートフォンが10年で当たり前になったように、AI、ロボット、IoTなどもこれから10年で当たり前になり、力さえあれば、どこに住んでも、仕事ができるという時代が来る。しかし、そのためには、大学も含め、いろいろなものが国際的水準で整備される必要がある。

Q

座右の銘はお持ちですか。

A

天使(悪魔)は細部に棲む。要するにいくら大きな構想をしていても、細部をきちんとやっておかないと崩れる。

Q

最後に一言。

A

楽しんでいる。東南アジアのいくつかの国のある地域についてはかなり突っ込んで勉強したことがある。今回、はじめて、日本で一つの地域をかなり集中的に見ている。豊かなところだけに、熊本は国内外にとっていろいろな意味で成功事例を提供できるのではないかと。

プロフィール

Profile

Ph.D. (コーネル大学)、文化功労者。

コーネル大学教授、京都大学教授、総合科学技術会議議員、政策研究大学院大学学長を経て、平成30年4月1日に公立大学法人熊本県立大学理事長就任。

活躍する卒業生



左から県大卒の土屋さん、小濱さん、倉永さん、今回インターンで名古屋から来られた荒川さん

熊本県五木村 総務課
課長補佐

倉永 敬三さん（総合管理学部 平成14年卒業）

県大ネットワーク!!

今の仕事内容

県職員なのに役場職員!?

豊かな山々と清らかな渓流、そして子守唄で有名な五木村。この役場に今年4月に県から派遣となりました。「なぜ、県職員が?」と思われるかもしれませんが、県では、市町村の情報連絡や職員のレベルアップのために、相互に職員を派遣する制度があります。現在

役場では、総務課勤務で人事、財政、法令などの役場内の内部管理業務を行っています。中央省庁にも派遣されていた時期もあるため、これらの経験を活かし、五木村振興のために日々がんばっています。

後進に伝えたいこと

いろんな方と話しをしよう!

恥ずかしながら、在学中は友達、サークル、バイト三昧で「地域振興をしたい」など目的がなく県職員になった私ですが、今はそれによかったと思います。というのも、公務員は専門家もよいですが、結局一人(行政だけ)では何にもできません。道路復旧は建設業者の方々、災害時は消防団等の地域の方々、特産品PRは生産者の方々、観光PRはマスコミや旅行会社の方々等専門の方のお力が必要です。このような方々に困ったときに相談でき、協力していただけるようなネットワークを構築できるのが、公務員の今後のあるべき姿と思っています(当然公平性を踏まえ)。私は、総合管理学部だったのですが、多くの分野を学べたため、様々な分野の方々とも「なんとなく」話ができます(笑)。更に、今思うのは「総管は多くの分野を学ぶため、様々な分野で活躍している卒業生が多い、結果、

どんな分野でも相談できる人がいる」ということです。実際、学生時代の友人に相談して、解決の糸口になったことがたくさんあります。そのため、学生の方々、卒業生の方々みんな、このような県大ネットワークを広げていけば、近い将来「東大卒」でなく「県大卒」が日本を動かす時がくるかもしれませんね!

※ちなみに、五木村で不思議な縁がありました。五木村では現在、アウトドア観光、五木産材PR、移住定住に力を入れています。これらの取り組みに、なんと県大卒業生が2名、偶然にも五木村で地域おこし協力隊としてがんばっておられます。おかげ様で移住定住者もグングン増えてきています。

後援会では、大学と連携し、学生のキャリア・就職意識の啓発、職業選択、社会人としての人格形成等に有効な就職活動支援を行っています。

その一つとして、学内で開講される公務員試験対策講座に対し、受講料の一部助成を行っています。本年度も専門の講師による講座が約1年間のカリキュラムで開講されており、公務員志望の3年生が多数受講しています(写真参照)。後援会会員については、コースによっては通常の半額程度の受講料で受講が可能となっています。社会で役立つとする学生を、後援会は応援しています。

この他にも後援会では、実り多い学生生活のために様々な支援を行っていますので、是非ご活用ください。

《就職対策事業》

- 就職対策講座(公務員試験対策、就職活動実戦、ITパスポート試験対策、簿記検定試験対策、行政書士試験対策、宅地建物取引士試験対策、ファイナンシャルプランナー、秘書技能検定対策、二級建築士受験対策)の助成又は開催経費の助成、資格取得及び講座受講等助成
- 就職セミナー・各学部による就職支援事業・在学生就職アドバイザー配置支援、PROGテスト(社会人基礎力の測定)・TOEIC® IP学内試験への実施支援、学内合同企業セミナー設営・福岡地区合同企業説明会参加助成、就職・進学写真代助成、保護者用就職ガイドブック配付

《学生活動支援事業》

- サークル活動費助成、白亜祭・PUKリンピック開催経費助成、体育委員会主催リーダーズトレーニング・サマーキャンプバス代助成、全国大会等出場助成、ボランティア保険料助成 等
- 学生用カラーコピー機の設置、コピーカード配布・販売、防犯ブザー貸出、食育支援
- 学生の REQUEST に応じ図書を購入し図書館へ配置 等

《国際交流推進事業》

- 海外留学助成、留学対策講座助成、留学生による学生等向け語学講座開講支援 等

《教育究推進事業・その他》

- 共同自主研究への助成、現地学習バス借上助成、インターセミナール大会等への参加助成
- 卒業式のガウン貸与、卒業記念品贈呈 等



目指せ食生活改善！食育推進で地域とつながる

■たべラボ活動始動！

今年度から、自らの食生活・生活習慣のスキルアップと学内外への食育を実施する学生グループ「たべラボ」(「table laboratory:食卓研究会」の略称)を組織し、学生主体の食育活動を展開しています。現在、様々な学科の1~4年生約50名が活動に参加しています。6月には、グループワークをおこない、たべラボの活動で卒業までにどうなっていたいか、どんな活動がしたいか話し合いました。

■麦むぎウィーク開催

県内地域の食のPRと学生の食意識向上を目的として、7月10日から13日の4日間、学食にてたべラボ考案の大麦を使用したメニューを日替わりで提供いたしました。たべラボの学生たちは、熊本農業高校の大麦畑を視察し、西田精麦株式会社の浦松氏から大麦について学び、大麦の特性を生かしたメニューを作成しました。様々な学生の意見を取り入れることで、「大麦が苦手な人へのメニュー」や「ボリューム満点の男飯」等、ユニークな視点のメニューが生まれました。



ボリュームたっぷり大麦トマトリゾット定食

自分の思いを形にするグループワーク

水環境中の化学物質の挙動と生物濃縮を研究

私は環境化学を専門としており、人間の生活・生産活動に伴って排出される化学物質が環境中でどのように動き、どのくらい生物に蓄積し、リスクがあるのかなどを研究しています。ここでは、これまでの研究内容の一端を紹介させていただきます。

高まる窒素リスク、熊本・阿蘇地域の河川水や地下水を調査

人間の活動が地球システムに及ぼす影響を客観的に評価する方法の一つに、「地球の限界(プラネタリー・バウンダリー)」という概念があり、気候変動など9種類の環境問題が評価されています。そのなかで窒素の生物地球化学的循環のリスクが顕在化していることが示されています。窒素のリスクが高いという意外に思われるかもしれませんが、窒素を含む化学肥料の農地への過剰な散布、生活排水・畜産排水の不十分な処理によって、世界的に水質の汚濁や赤潮が引き起こされています。熊本県も例外ではなく、毎年のように赤潮が発生し、また熊本地域の井戸水の約19.5%(平成21年度)は硝酸性窒素(窒素の一形態)の環境基準値(10 mg/L)を超過しています。地下水は一度汚染されると浄化が難しく、回復までに極めて長い時間を要します。熊本地域の地盤は透水性が高いため、表流水と地下水を一体とした対策を考え、水質を管理することが重要です。研究室では熊本・阿蘇地域において河川水や地下水の調査を行い、硝酸性窒素や有機化合物の地理的な分布や経年変化、物質収支などについて調べています。

熊本の環境問題解決が世界の環境問題解決への一助に

また、水環境に排出された化学物質は、その性質に

研究活動紹介



環境共生学部環境資源学科
准教授 小林 淳

よっては水俣病の原因物質であるメチル水銀のように海水から植物プランクトン、そして捕食者へと生物濃縮、食物連鎖蓄積が起こり得ます。研究室では有明海に注ぐ河川の河口や東京湾で採取した水生生物中の有害化学物質の濃度を測定し、食物連鎖蓄積の程度と化学物質の物理化学的性質との関係を調べています。化学物質の疎水性などの物理化学的性質を変数とすることで、多種多様な化学物質の生物濃縮性や生態リスクを予測する手法の高度化を目指しています。

熊本でみられる環境問題は、世界の他の地域でもみられる現代社会に共通の問題が多くあります。したがって、熊本の地域課題を解決することは、世界の環境問題の解決にもつながります。環境化学の立場から、本学のスローガンである「地域に生き、世界に伸びる」を学生とともに実践していきたいと思っています。



プロフィール

Profile

新潟大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。国立環境研究所を経て、平成27年4月より現職。



＜上＞研究室での実験風景の一コマ
＜下＞有明海沿岸の調査



阿蘇市の隼鷹天満宮。熊本県内には1000ヶ所以上の湧き水があります。

国際交流



さまざまな国の学生との交流が、
県大生のグローバルな視点を
育みます。

香港理工大学学生との 交流イベントを実施しました！

6月2日に文学部英語英米文学科の学生が香港理工大学の学生と交流しました。グループに分かれてお互いの自己紹介に始まり、香港理工大学学生による香港の食文化の紹介を聞いた後、グループディスカッションで日本と香港の食文化の違いについて意見を交わし、ランチを食べました。ランチ後は折り紙を実践しながら日本の夏の行事、七夕を伝え、楽しく実りのある時間を過ごしました。



総合管理学部・佐藤ゼミ生が 韓国憲法裁判所と ソウル大学日本学研究所を訪問！

総合管理学部・佐藤雄一郎ゼミ(憲法学)では後援会から助成を受けて、3月20日から23日の4日間、韓国憲法裁判所とソウル大学日本学研究所等を訪問しました。

韓国憲法裁判所では蘇恩瑩憲法研究官と、日韓の違憲審査制・憲法判断の違い等について、研究会を行い、ソウル大学では、日韓関係がご専門である南基正教授から、「文在寅政権の対日政策と日本軍『慰安婦』問題」について講義していただいた後、ゼミの学生とソウル大学の学生との間で、日韓関係について率直な意見交換を行いました。



World Campusの学生と交流しました！

6月22日に日本の各地でホームステイ・交流を行うNPO団体「World Campus」に参加している、アメリカ、スウェーデン、チェコ、フィンランド、ノルウェーなど、世界各国の学生12名が本学を訪れ、学生と交流しました。自己紹介から始まり、お互いの国の印象などを話し合うステレオタイプゲームで相互理解を深めました。昼食後は折り紙や習字を体験してもらったほか、ドッチボールやバレーボールをして盛り上がりました。



ニュージーランドの大学生に 英語で観光ガイドを実施しました！

4月24日から29日の6日間に熊本に滞在したラグビーのニュージーランド大学学生選抜チーム(NZU:New Zealand Universities)の学生に対して、ボランティアで熊本城の観光ガイドを実施しました。

学生たちは、NPO法人「ディスカバリーくまもと」の協力の下、自分たちで考えた内容を英語に直し、実際に熊本城での実践練習を経て英語で観光ガイドを実施しました。同年代の大学生の英語でのガイドに、NZUのメンバーも温かく真剣に聞いてくれました。観光ガイドだけではなく、滞在期間を通して、宿泊先での食事、ラグビーの練習の手伝い、ショッピングのサポート、スポーツボランティアへの参加など、いろんなシーンで英語を使っでの交流を深めることができました。



サンミョン 韓国・祥明大 学校より研修団が来学

6月25日から7月2日の8日間、本学の協定校である祥明大 学校より、日本語を学ぶ学生10名・教員1名の研修団が来学しました。研修団は日本語研修の受講に加え、本学の学生サークルとの交流を通して、茶道や着付け、生け花、和菓子作りなどの日本文化を体験しました。また、月出小学校の児童との交流、南阿蘇村でのそば打ち体験や七夕まつりの見学なども楽しみ、充実した内容の研修となりました。



山田在シアトル日本国総領事が 本学を訪問

7月11日、山田洋一郎在シアトル日本国総領事が本学を訪問されました。今回のご訪問は、昨年11月の熊本県・モンタナ州姉妹関係締結35周年記念式典の際に半藤英明学長と知り合われたご縁で実現したものです。

山田総領事には、半藤学長らとの会談の後、文学部英語英米文学科の学生たちを対象に米国の社会や国民性についてご講演いただきました。講演の最後には「英語は表現するための手段・道具、英語を学んだ上で自分には何ができるのかを考えてほしい」とアドバイスをいただくなど、学生たちにとって大変有意義な時間となりました。



タイ国メーファールアン大学との 熊本地震後の対応に関する意見交換

7月24日、タイ国チェンライ市メーファールアン大学ソーシャルイノベーション学部の副学部長であるワンワリー・インピン教授他4名が「復興のための補償政策」に関する研究の一環として本学を訪れました。本学からは堤副学長をはじめ、学生ボランティア県大防災ユニットの学生、環境共生学部居住環境学科の佐藤准教授、COC推進室の野口特任准教授が対応し、本学における避難所運営や仮設団地支援、災害における初動対応の重要性や防災活動について意見交換を行いました。





五百旗頭真先生の特別栄誉教授 記念講演会を実施しました！

3月まで本学の理事長を務められた五百旗頭真先生に、特別栄誉教授の称号を3月に授与しました。その授与を記念した記念講演会「激動の世界を生きる」を7月7日に開催しました。世界情勢について、日本とアメリカ、日本と中国、そして直前に米朝首脳会談が行われたことから日本と北朝鮮の関係もお話をいただき、約150名の参加者の皆さんは熱心に耳を傾けていらっしゃいました。



「新熊本学」シンポジウムを 実施しました！

毎年300名以上の学生が受講する人気講義である「新熊本学：地域のビジネスリーダーに学ぶ」では、熊本のニューリーダーによる産官学連携のシンポジウムを7月24日に開催しました。(株)あつまるホールディングス常務執行役員：島田源太氏によるコーディネートで、熊本県副知事：小野泰輔氏からは県の政策、日本銀行熊本支店長：倉本勝也氏からは県内の経済、地場企業、(株)古荘本店代表取締役社長：古荘貴敏氏と(株)再春館製薬所代表取締役社長：西川正明氏からは、地域における地場企業の役割が紹介され、パネルディスカッションを行いました。



総合管理学部COC事業プロジェクト 出版記念シンポジウム 「地方創生への挑戦」を実施しました！

本プロジェクトチームは、3月17日にシンポジウムを開催しました。午前の部では、「わが国の財政と地域の少子高齢化社会への対応」というテーマで、佐藤正之九州財務局長、平田稔彦熊本赤十字病院長、半藤英明学長が講演を行い、午後の部のパネルディスカッションでは、「地域の高齢化社会における経済活性化ー農業県熊本に向けた挑戦」というテーマで、県内の過疎化が加速するなか、どのように農業による経済活性化をめざすかを討論しました。



総合管理学部宮園ゼミ、和水町で現地調査

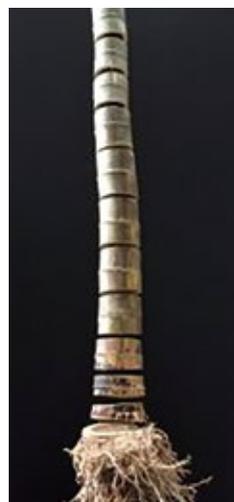
総合管理学部の宮園ゼミでは、和水町の「ふれあいの森」でサバイバルゲームの開催に向けた現地調査を行っています。これは、地元住民がつくる「なごみの里協議会」が取り組む地域活性化事業で、この森に若者を呼びこもうとゼミ生らが発案しました。活動としては、生い茂る森の中でフィールドの面積、ルート、高低差などの調査、安全性の確認などを実施しています。GPSセンサーによる位置の確認、ドローンによる空撮等も行いました。



環境資源学科・井上教授が「土木学会論文賞」を受賞しました！

環境共生学部環境資源学科 森林生態学研究室の井上昭夫教授が「竹の節・組織構造が織り成す円筒体としての合理的な構造特性の理論的解明」の業績により、共同研究者とともに「土木学会論文賞」を受賞しました。

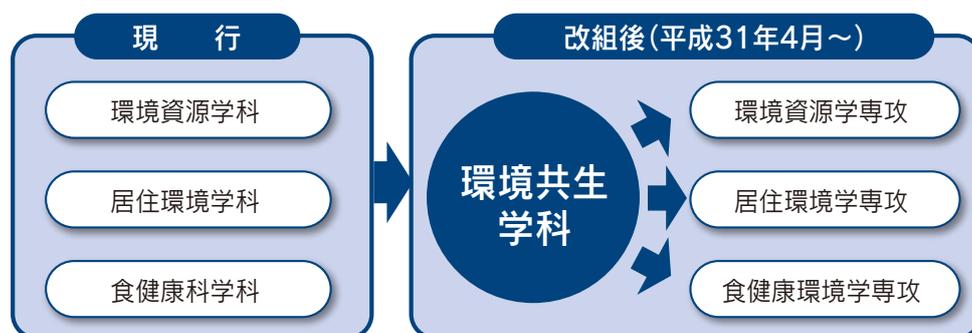
この論文では、中空の竹が節と特異な組織構造をもつことにより、少ない材料で巧妙に力学的特性を最適化していることを構造力学、物理学および森林科学の異分野融合により実証するとともに、竹の構造を模倣した軽くて丈夫な構造材料への応用の可能性を示したことが高く評価されました。



環境共生学部の 学科改組計画のお知らせ

平成31年4月から、現行の3学科(環境資源学科、居住環境学科、食健康科学科)を1学科(環境共生学科)に改組し、そのもとに3専攻(環境資源学専攻、居住環境学専攻、食健康環境学専攻)を設けます。

改組後は、「環境共生」をベースとした、現行の3学科横断的な教育内容の充実を図ります。また、現行の各学科に対応する教育内容を改組後の各専攻でも準備しており、これまでと同様に学ぶことができます。



図書館1階にLearning Commonsがオープンしました！

学生の皆さんにもっともっと気軽に図書館を利用していただけよう、「グループ学習ができる場を増やしていこう！」という目的で、図書館1階にLearning Commonsがオープンしました。申し込みなしで利用できる会話可能なスペースとして、グループ学習や討論会などに利用できます。パーテーション、可動式ホワイトボードを設置し、プロジェクターを貸出していますので、皆さんお気軽にご利用ください。



活き活き元気種

このコーナーでは地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。



音楽で熊本を元気に！

吹奏楽部

吹奏楽部部长 永木海(総管理学部3年)

コンクール参加や復興イベントでの演奏出演など、さまざまな活動に向けて、部員55人が週3回練習に励んでいます。

私たち吹奏楽部は現在3年生22名、2年生18名、1年生15名、合計55名で日々の練習に励んでいます。普段の練習は月曜日・水曜日・金曜日の週3回で、個人やパート練習、基礎合奏を主に行っています。コンクールの約1ヶ月前には外部の先生をお呼びして「九州大会出場」を目標に土曜日・日曜日にも合奏の練習をしています。活動が多いサークルですが、ボランティア活動や学校で行われる様々な活動に積極的に参加する人たちが沢山いるので、サークルと自分がやりたいことの両立もでき、充実した大学生活を送ることができます。

練習以外では、入学式や卒業式、白亜祭やイベント等での演奏、熊本県吹奏楽コンクールに出場するなどの活動をしています。今年サンロード新市街で行われた2018熊本地震復興コンサートに参加し、太鼓芸能集団袖衣YUIと崇城大学吹奏楽部と合同で演奏もしました。熊本地震から2年、私たちは音楽という形で熊本の復興を支えたい、熊本を音楽で元気づけたいという願いを込めて演奏させていただきました。多くの方が見に来てくださり、応援してくださいました。練習期間が短かったので合同演奏の曲を仕上げるのは苦労しましたが、熊本の復興への思いを伝えることができ、見

に来てくださった方々に少しでも元気を与えることができたいと思います。同じ思いを持った人たちとのつながりもでき、これからも頑張っていこうという気持ちになりました。また、2018年度の吹奏楽コンクールでは「金賞」を受賞し、9月に行われた九州大会への出場が決まりました。目標を達成した瞬間の感動は忘れられません。このような活動の他にも、部内での交流を深めるために夏合宿や部内アンサンブルコンサートなどを行っています。どれも楽しい企画で一生の思い出になります。

吹奏楽部は、男女問わず、初心者・経験者問わず家族のようなサークルです。先輩後輩もとても仲が良く、休みの日でも一緒にご飯を食べに行ったり、集まって練習をしたりいつも楽しく活動しています。これからもこの仲の良さを活かし、私たちの音楽を皆様にお届けします。



熊本県立大学未来基金への御協力に心より御礼申し上げます。

未来基金寄附者御芳名 (H29年度実績)

個人: 7件、法人・団体等: 3件、
古本募金: 9件(敬称略、50音順)

500万円	西部電気工業株式会社
200万円	紫苑会
50万円	一般財団法人未来会
5万円	三浦 章
お名前のみ	上田 哲子、陣内 ヒロミ、黒木 誉之、花村 陽子
古本募金	クリフォードチャンス法律事務所(2件)、 久永 綾子、総合管理学部有志一同(3件)、 古本回収ボックス(2件)

※お名前の掲載を希望されなかった方 個人2名、古本募金1名

基金創設(平成21年9月)以来の寄附金総額は、
115,671,342円となりました。(※受取利息は含まない。)

未来基金平成29年度活用実績

◆ 熊本県立大学奨学金の充実	7,220,400円
修学支援	西部電気工業奨学金 4,200,000円 同窓会紫苑会奨学金 2,000,000円
海外留学支援	短期派遣留学生支援奨学金 700,000円 小辻梅子奨学金 320,400円
◆ 「熊本で世界と向き合う」を コンセプトとした国際化事業	654,730円

※熊本県立大学国際関係シンポジウム2017「トランプ政権とアジア太平洋」開催経費の一部(講師、パネリスト招聘経費)

引き続き皆様からの御支援、御協力をお願い申し上げます



『社会人のための英語の世界ハンドブック』

酒井志延 編/朝尾幸次郎 編/小林めぐみ 編

出版社: 大修館書店 本体価格: 2,200円(税込み2,376円)
ISBN: 9784469246155

英語学習に役立つ情報がもりだくさん

外国語を学ぶには、その言葉が話されている地域の文化や社会背景を理解することが不可欠ですが、何から手を付けていいのかわからない人が多いのではないのでしょうか。『社会人のための英語の世界ハンドブック』には、英語や英語圏に関する情報がコンパクトにまとめられています。英米を中心とする英語圏の国々の社会や生活を紹介した後、英語と深く関わりのある聖書やシェイクスピアなど文化事項の説明が続きます。特に面白いのが迷信の説明で、木製のものを叩くおまじない“touch wood”は実際にイギリスで見かけました。また、本の後半部では英語の起源や世界の英語方言、英語の発音や英語圏のジェスチャー、さらには辞書の引き方やEメールの書き方など、英語学習に役立つ情報が盛りだくさんです。写真やイラストも豊富で楽しく読めますので、英語を勉強する方にぜひ一度手に取って頂きたい1冊です。



文学部英語英米文学科 講師
野々宮 鮎美

特別荣誉教授の称号授与

<平成30年3月30日授与>

前理事長、専門分野: 政治学(日本政治外交史)

五百旗頭 真 氏



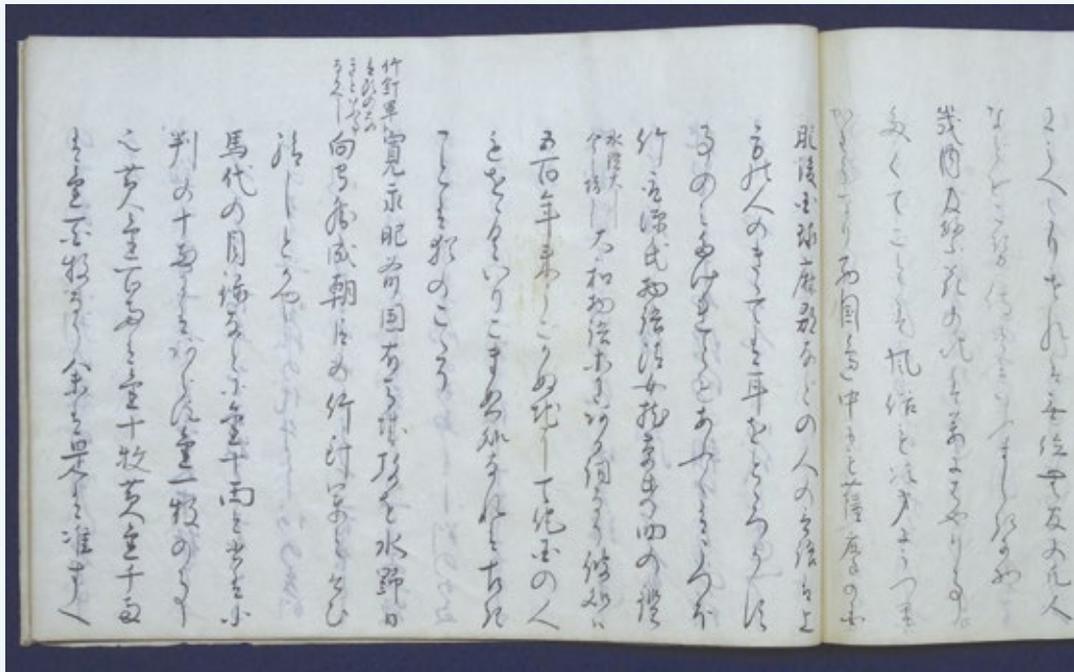
名誉教授の称号授与

<平成30年8月20日授与>

元総合管理学部教授、専門分野: 通信ソフトウェア

三浦 章 氏





『夏山雑談』 寛保元（1741）年序

江戸中期写 熊本県立大学文学部蔵

文学・史学に造詣が深かった幕臣 小野高尚の
手になる著作である。諸書の記載や風俗・風聞
を紹介しつつ自身の考証を加えるという随筆風
の内容で、出版はされなかったものの、写本が
各所に残る。本学蔵本の料紙は薄葉紙で、由緒
正しいと目されていた伝本を透き写しにしたも
のであろう。

本書が収める多岐に亘る話題の中でも、繁華
な地から隔たった地方（俎上にあげられるのは
薩摩と球磨地方）に古語が残るとするこの一節
は、柳田国男が提唱した方言圏論的な分析の
早い例としてよく知られている。現代とは仮名
遣いも漢字の宛て方も異なるが、原文のまま
御一読を。

畿内及繁花の地は、万にはやり事
多くて、ことば、風俗も次第にうつり
かはるなり。西国辺中にも、薩摩の国、
肥後国球磨郡などの人の言語は、上
方の人をきゝては、耳をどろかす
事のみ多けれども、あふくは、うつぼ、
竹取、源氏物語、清女枕草子、四の鑑

水鑑 大― 大和物語等にある詞なり。彼処は
今― 増―

五百年来うごかぬ地にて、他国の
もをゝくいりこまぬ処なれば、古き
ことば猶のこたり。

*濁点と句読点は補った。6行目の「あふく」と10
行目の「をゝく」はいずれも「多く」。11行目の「の
こたり」は「のこりたり」。

解説： 文学部 日本語日本文学科 教授 米谷隆史

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
〒862-8502（住所記載不要）
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行
FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学

〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
TEL 096 (383) 2929 (代)
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>